

脊椎脊髓の手術 第Ⅱ巻

編著：戸山芳昭，花北順哉

山崎正志

筑波大学医学医療系整形外科

脊椎脊髓外科医必携の書

われわれ脊椎脊髓外科医にとって待望の手術書『脊椎脊髓の手術 第Ⅱ巻』が三輪書店から上梓された。第Ⅰ巻に相当する『脊椎脊髓の手術 Illustrated Surgery of Spine & Spinal Cord』が2002年に発刊されてから13年ぶりの続編の発刊ということになる。

ご存じのように『脊椎脊髓の手術』（第Ⅰ巻）は本誌に連載された「イラストレイテッド・サージェリー」を集大成した手術書であった。イラストを中心に構成された内容は、手術を実際に執刀するものにとって、実践的で大変に役に立つ書として愛読されてきた。

今回の「第Ⅱ巻」は、第Ⅰ巻の出版後に、引き続き本誌に連載されてきた「イラストレイテッド・サージェリー」の集大成ということになる。この2002年から2015年までの期間は、脊椎脊髓外科の手術の進歩、特に脊椎インストゥルメンテーション手術の進歩がひととき顕著な時期であったといえる。この意味で、「第Ⅱ巻」では、最新のインストゥルメンテーション手術に大きなスペースを割いている。加えて、内視鏡手術、経皮

的手術などの低侵襲手術などの、新たに開発された手術手技も多数掲載している。

編集には本誌編集委員長の戸山芳昭先生および同編集委員の花北順哉先生があたられ、脊椎脊髓外科専門医を目指す医師に必須の手術が精選されている。イラストの追加・修正を行い、最新情報を反映させるとともに、書き下ろしの新項目を3編追加している。著者は全100名の脊椎脊髓外科医であり、その道のスペシャリストの著者たちが原案を作成した867点の美しく正確なイラストは圧巻である。「第Ⅱ巻」は第Ⅰ巻を約250頁上回る626頁から成っている。本書がいかに重厚で内容に富んだものであるかがわかる。

本書を手にとってみると、その素晴らしさを、すぐに実感できる。まずは、術者の視野で、手の動きがみえてくるように描写された臨場感あふれるイラストに引きつけられる。そして、術野の展開に従ってstep-by-stepにイラストが続く。イラストに添えて、手術適応、手術の留意点とコツについて、手術のエキスパートである著者たちが苦勞して習得してきたエッセ



スが簡明に解説されている。そして、必要な手術法に素早くアクセスできるように除圧・固定、インストゥルメンテーション手術などの手術法を、前後別、高位別に配置しているところもありがたい。本書によって、手術のコツ、ポイントについて、きわめて多くの情報を効率的に得ることができる。

外科系医師にとって、安全・安心な医療の提供とは、「手術手技・技術」そのものといっても過言ではない。実践的かつ専門的な本書は、安全・安心、確実な脊椎脊髓手術のよきナビゲーターであり、脊椎脊髓外科医にとって最良の手引書、参考書の1つであると確信する。脊椎脊髓外科に携わるもの、これから脊椎脊髓外科医になろうとするものにとって「必携の書」といえるだろう。

●定価（本体24,000円＋税）
A4判，626頁，三輪書店